

光井 渉(美術学部建築)

『建物の見方・しらべ方 江戸時代の寺院と神社』

この本は、私が文化庁に在籍していた平成5～6年に、同僚と共同で編集執筆したものです。ここでテーマとなっている江戸時代の寺院・神社建築については、昭和50年代まで、古代・中世の建築と比べると低い評価しかされていませんでした。しかし、昭和60年代に入ると、その装飾性の豊かさや複数の建築が連なって創り出す環境の見事さなどから注目され初め、研究と評価が急速に進みました。この本は、そうした研究成果や評価の視点をまとめながら、寺社建築をどのように見たら得られるものが多いかを解説しようとしたものです。それまでも自分一人で執筆したものはかなりあったのですが、本の企画を決めて出版社を探し、多くの執筆者に本の企画を理解してもらいながら原稿を依頼し、そのチェックをするといった仕事は始めてで難しさと同時に、本作りの面白さをここで知ったような気がしています。その意味で私にとって思い出が多い1冊です。

(2002年11月 教官アーカイヴ展に寄せて)